

令和6年度第1回碧南市国民健康保険運営協議会会議録

1 開催年月日及び日時

令和6年7月29日（月）午後1時30分から午後2時20分まで

2 場所

碧南市役所 6階 第2委員会室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（13名）

高松 好美、鏑本 幹夫、小笠原 恵三、高橋 富夫、長田 和久、楡 孝子、
藤浦 一喜、齋藤 英延、池田 史明、原田 孝司、小田 直樹、榊原 康廣、
神谷 満喜子

欠席者（2名）

杉浦 民生、新美 慶太郎

(2) 事務局職員

健康推進部長 伊藤 正博

国保年金課長 鈴木 好美

国保年金課課長補佐（国保係長） 石川 広也

国保係主事 禰亘田 優

4 傍聴者

1人

5 議題

(1) 令和5年度碧南市国民健康保険の事業報告について

(2) 令和5年度碧南市国民健康保険特別会計決算について

6 会議の状況

議題(1)について、事務局が説明。

<意見・質疑>

【A委員】

17ページ。その他の保険給付費の中で令和5年出産育児一時金件数43件は、単純に碧南市内で産まれた方ということですか？

【事務局】

碧南市の国保被保険者の方で出産された方です。

【A委員】

現実的には加入されていない方は、もっと多い数字になりますか？

【事務局】

碧南市全体の出産数となると、全体で400人程で、そのうち国保被保険者で出産された方が43人ということになります。

【A委員】

葬祭費の中で、令和5年95件とありますが、それも同じような考え方ですか？

【事務局】

全体の数は把握しておりませんが、全体のうち国保加入者の葬祭費の申請者数ということになります。

【B委員】

特定健康診査の受診率は46.7%ということで、半分にもならないですね。

【事務局】

50%未満という意味で半分に満たないですが、近隣市と比較すると、特定健康診査の受診率は高い率となっています。

【B委員】

せっかくやるので、何とか啓発活動をしていただいて、少しでも伸ばせるようになった方がいいと思います。

議題(2)について、事務局が説明。

＜意見・質疑＞

【B委員】

将来的には年金はどうなりますか？子どもの数が少なくなつて、若い方が少なくなつて、僕ら75歳以上の団塊の世代が増えていって、あと10年後にはどういう見方をすればいいのか。

【事務局】

一般的によく聞くのは、高齢者の定義を65歳から70歳にする。つまり、年金をもらえる年代を引き上げていくということです。また、年金の財源の公費の負担を2分の1から増やしていくことがメインになっていくかと思います。

【A委員】

国民健康保険について、財源が足らなければ一般会計から法定外で繰入をする。こういう考え方でずっといくのか。何か早急に制度変更をするのか。

【事務局】

将来的には、碧南市の税率を県が示す標準保険料率に合わせていきます。今後計画しているのは、段階的な国保税率の改正です。税率を上げると税収が上がります。すると、一般会計からの繰入金も少しずつ減らすことができます。この仕組みの中で標準保険料率に近づけていくという方向で進めています。将来的には、愛知県どこの市町村でも同じ税率でやっていく、ということころを目指しています。また、県単位の統一後に、国全体でも算定基準の統一を目指すと聞いております。

【A委員】

交付団体も不交付団体も一緒ですか？

【事務局】

そこは関係ありません。国保の加入世帯は高齢の方が多いため、医療費もかかります。税の負担能力が弱い方が多いため、どうしても構造的にも中々うまくいきません。よって、国から支出金等が出るような要望を各所から挙げていると聞いております。

【A委員】

大きな枠から考えれば、団塊な世代、この山を超えると、今後は考え方が変わってくるかと思います。まだその後の考えは出ていないのですね。

【事務局】

ここ数年が一番大変な時期で、団塊な世代がすべて後期高齢の方に移行すると、状況は変わってくるため、その時点を見据えて国がいろいろと検討していると思います。しかし、現状では碧南市には詳しい情報は届いていない状況です。

【事務局】

追加ですが、2040年に団塊ジュニアが全員65歳以上になり、高齢者の数が増えます。結果的に、高齢者の年齢を上げていくしかないのかなと思います。また、一番大きな問題は少子化と思っております。

【B委員】

碧南市は、人口はほぼずっと一緒なので、計算しやすいと思います。私の年金が年間1万円増えていましたが、国の政策ですか。

【事務局】

物価スライドというのがございます。物価が上がると年金額も上がります。